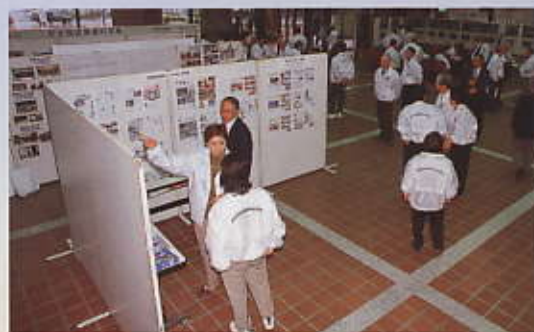


21世紀の市民憲章運動のあり方をもとめて

市民憲章運動推進第36回全国大会

茨城・ひたちなか市



市民憲章運動推進 第36回 全国大会

“見つめよう 育てよう 高めよう”

ふれあうコミュニケーションによるまちづくり・ふるさとづくり





この日に開花するように丹精込めて手入れされた菊が、会場となった市民会館の前庭や壇上を彩っている。このなかを続々と参加者が詰めかけて来る。

「見つめよう育てよう高めよう ふれあうコミュニケーションによるまちづくり・ふるさとづくり」をテーマに掲げた市民憲章運動推進第三十六回全国大会が、生憎の小雨が降るなかにもかかわらず、北は北海道の釧路市から南は沖縄県石垣市まで、約千二百人の参加を得て、昨年十一月十・十一日の二日間にあたって開催された。

大会は、昨年制定された「全国市民憲章運動連絡協議会唱和文」の参加者全員での朗読から始まった。次に主催者を代表して、全国市民憲章推進協議会の刈部操会長が「市民憲章は、まちづくりの規範であり、目標であり、今回の大会を二一世紀の市民憲章運動の方向性を見出す大会としたい」とあいさつした。引き続き、事例発表や基調講演が行われた。

基調講演では、学校法人国際大学の公文秀平氏が「情報化社会における二一世紀の市民運動を展望する」という題で講演。この中で、公文氏は、二十世紀が国家と企業による世紀であったのに対し、二一世紀は、情報革命を通じて、これまでの国家や企業とは性格を





異にする新しい集団（NGOやNPO）が台頭してきた。この新しい集団は、自分たちが実現したいと思う目標を掲げて、相互の緊密なコミュニケーションを行って仲間を広げ、楽しい（良い、正しい、美しい）社会をめざして活動していかだろ。グローバル化が進む中で、今後、このような組織と企業、国家がいかに共働していくかが課題であろうとした。

事例発表としては富山電脳塾塾長の発田悦造氏が、全家庭にパソコンを貸与し、各家庭をインターネットで結び各種の情報提供やまちづくりを活用している富山県山田村の事例を、通信・報道・福祉といったあらゆる分野に広がっているインターネットの今後の可能性について、地元の日立製作所のモバイルシステム部の主任研究員小澤継太郎氏が報告した。

また、ひたちなか市が甲斐武田氏の発祥の地ということで、地元の「武田偲ぶ会」による「武田出陣式」が再現され、陣太鼓にのって武田一族の武者が登場し会場を圧倒した。

そして、大会宣言の採択後、会場をホテルに移し、交歓会が開かれ、地元の芸能である「磯節」などが壇上で披露される中、各地からの参加者が互いに活動の状況を語るなど交流を深めた。翌日は、七世紀初頭に作られた





市総合体育館では、全国大会にあわせて、産業交流フェアや消費生活展も開催され、6万人の人出で賑わった。

といわれる横穴式石室をもつ前方後円墳である「虎塚古墳」などを見学し、日程を終了した。

ひたちなか市でこの全国大会が開催されるのは二回目。勝田市と那珂湊市が平成六年に合併しひたちなか市となったが、合併以前の昭和六十二年度に、勝田市で第二十二回大会が開催されている。それだけに、見逃せないのが、ひたちなか市市民憲章推進協議会のこの大会に対する熱の入れ方。開催に向けて、一年前から総務、接客、広報・交流、記念展・研修などの六部門の事業担当委員会を結成し、準備作業に取りかかった。このうち広報・交流事業担当委員会では、刈部会長も参加してのキャラバン隊を結成。県内の各市町村や関係団体を訪問し、大会参加を依頼してまわった。また、当日には、ボランティアスタッフとして、総勢二百名にものぼる市民が受け付けや接客にあたっていた。

なお、大会に先立ち開催された総会で、次期開催は、秋田市で十月十八、十九の両日に開催されることが決定した。

■連絡先〓ひたちなか市役所

市民生活部自治防災課内

ひたちなか市市民憲章推進協議会

TEL〇二九―二七三―〇一一



虎塚古墳の後円部にある石室壁面には、円形、三角形などの幾何学模様、太刀、矛などがベンガラで描かれている。この石室内部は、秋と春に一般公開されている。